

定 一 部 金 貳 錢 廣 告 五 十 字 行 一 日 休 日 大 祭 福 島 縣 石 城 郡 平 井 長 橋 町 三 五 番 一 丁 月 刊 郵 送 料 五 圓 一 角 五 分 行 刊 日 祝 日 休 日 常 務 編 輯 日 新 報 社 電 話 六 三 〇 番

常 新 報

日 刊 郵 送 料 五 圓 一 角 五 分 行 刊 日 祝 日 休 日 常 務 編 輯 日 新 報 社 電 話 六 三 〇 番

社 本 社 下 同 番 地 (電 話 六 三 〇 番) 印 刷 所 常 務 編 輯 日 新 報 社

日 刊 郵 送 料 五 圓 一 角 五 分 行 刊 日 祝 日 休 日 常 務 編 輯 日 新 報 社 電 話 六 三 〇 番

日 刊 郵 送 料 五 圓 一 角 五 分 行 刊 日 祝 日 休 日 常 務 編 輯 日 新 報 社 電 話 六 三 〇 番

愛と教育の種々相
高橋 濱吉

(六)

それをこゝで申すことは誠にお恥かしい次第であります。私が五つ位の時でありましたが、今でも私は郷里に歸ればその話が出ます。私の叔父や親戚に對しては全く私の五つの年のことを思ひ出して赤面するのであります。

それは私が五つの時に正月に叔父さんの宅に「新年

おめでたうございます、今年も相變らずよろしく」と言つて挨拶に行くと私の母から命せられました。私はその當時子供ながら威容を整へて扇子を持つて私の叔父の家に行つた譯であります。いつもなら玄關から下駄をぬぎすて、奥のほうに馳け込むのでありましたが、その時に限つて私の母から新年おめでたうと玄關から言つて歸つて來るのたと致へられて行つたのを、扇子を持つて威儀を整へて敷居のところ立つたところが、鵜飼返しにやるべき新年おめでたうといふ言葉を忘れて了ひました、叔父が出て来てどうしたんだ、早く上らないかと、言はれ、言はれる程その言葉が口に出ない、私は扇子を持つたとき泣き出して終つたのであります。

ところが叔父や叔母が出て来てどうした、どうしたと言はれるけれど「新年といふだけで後が出ない、遂に私は泣いて歸へりました、私の叔父や叔母は何が故に泣いて歸つたか分らないので、私の家まで聞きに來たがどうしても分らない段々調べて見ると私が年頭の辭を忘れて了つた事が判明いたしましたのであります。

東京行進曲

目下……
帝都流行の
ジャズソング
波浮の港の歌手
佐藤千夜子嬢が
心地良き
管絃伴奏で
ビクターレコードに
蓄音器・貴金屬
會田時計店
平町四(電三六三)

相帽と冬帽

モダーンな若人向
スマートな紳士向
東帽製 フワッ 七圓八〇
イタリ製ベローア
七、八〇
ウール 一、五〇
平四(電一四〇)
ツルヤ

心地よき秋が訪れました
秋向着尺
モスリンと
帯側が澤山
入りました
ぜひ常店へ
平二
龜田屋
電五七

三井呉服店

陳列と実用品特賣

伊勢崎 入王子 足利 優秀新柄銘仙陳列 於階上 十月三日ヨリ 七日 間

モスリン着尺 入選新柄陳列 於新館

秋冬物新柄特選

平町町會館 當由眼科醫院

七周年記念謝恩特賣

謹啓時下初秋の候貴家益々御多祥の段奉賀候。陳者弊店儀向業以幸茲に七周年半素格別の御學授御引立に預り誠に難有御厚禮申上候就ては七周年を記念し謝恩の微意を以て來る十月三日より九月十七迄十五日間左記特價を定め御用命御待ち申上候間此際多少共御注文の程奉懇願候

丸形 上々 新規七十錢 卵形 上々 新規七十五錢
弓張 全上 新替四十錢 弓張 全上 新替四十五錢
細長形 上 新替三十五錢 弓張 全上 新替三十五錢
弓張 全上 新替三十錢 其他並物は五錢安

尚消防火防青年團等の數物は特に御相談可申候

スガノヤ提灯店
福島縣平町四丁目電話七一二番

耳鼻咽喉科専門

場所 (舊診療所裏通り)

合津醫院

平町仲田町(電話五五九)

十月四日ヨリ 特別大舉行

松竹提供・意氣昇る常勝將軍、阪東妻三郎捲土重來の大活躍

銀蛇

必しも死ならず死に死の如く熱すれば噴火の如く史生を求めて華と散る情熱の血涙記ではある

純真な濱の乙女の心情を描く笑と涙の殉情詩

栗島すみ子が得意の情趣篇青春の小徑姉妹篇

海濱の愛のゆく末

濱に育つた娘として栗島すみ子獨特の境地を示す笑と涙に満ちた詩情豊かなる劇

一篇の海濱哀話ではある劇中安來節を取り入れ其の効果を一段と見せる近來の作

大日活會社が多額の費用と時日とを犠牲に製作せる本邦最初の

百二十パーセント級

發聲映畫正に完成

オールドキー東北地方公開権は當館唯一の連続時代映畫(長井半之丞の巻)

料金特大六〇小三〇
一等大五〇小二〇
普通大四〇小一〇

館平

管絃魔王の稱ある 小松氏の演奏公開

一人で十數種の樂器を
一度に演奏する

山田耕作氏が「管絃魔王」と
嘆賞した、總合藝術の創始
者小松教祐氏、今や北白川
竹田宮各皇族殿下の御前演
奏の

光榮を 擔ひ且つ東
京、大阪、仙台等に於ても
ラヂオの放送數回に及び全
國唯一人の「一人オーグス
トラ」の達人として其名を
知られて居るが氏は本縣相
馬郡の出身であつて井上平
消防組頭とは縁戚の關係を
有して居る、今回仙台に於
けるラヂオ放送から

歸京す るの途中平
町各學校に於ひて演奏し聞
く者をして驚倒せしめたが
此の神妙不可思議なる藝術
を廣く一般にも聴取せしめ
たいとの希望から五日の晝
間及び六日の夜間の二回に
亘り白銀青年分團援後で聚
樂館に小松氏の演奏會を催
す事となつた「一人オーグ
ストラ」とは氏の廻りに十
七八種の

樂器を 配置し腔口
や四肢を巧に動かし完全に
一度に合奏し十數人の樂手
がオーグストラを演奏する
が如き感を得るといふ
所に實に驚異的藝術の極致
がある、また氏は

一般に 知られた彼
の「ベニスの船歌」や「天然

の美」の作曲者であつて本
邦樂界の珍寶とされて居る

賦金未納多し 石城郡農會

當局苦心整理

石城郡各町村の郡農會費本
年度分賦課は九千五百八十
四圓であるが納期は五月三
十一日十月三十一日の二期
で十月拂込の分はさる一日
付で各町村農會に令書を發
したが五月拂込むべき四千
七百九十二圓は今日までに
千三百六十九圓納まつたの

夜間まで

繁き演習

(前略)廿八日無事入隊以
來頭健に服務して居りま
す、隊務は豫想外の繁忙
日曜休日なきのみならず
夜間迄演習繁く、私の身
心修養にとつては、寧ろ
好機を得ました、他は別
としてこの眞剣さとこの
誠忠さが吾々の社訓にも
欲しいと切實に感じます
(十月二日、廿九聯隊第
六中隊附、藤田榮助)

米價の暴騰

一俵十二圓半

石城郡の在米はますく品
薄となり最近越後米や台灣
から大口の移入を見たがそ
れでもなほ需要のバランス
を失してゐるので米商人は
目下血眼となつて買付に飛
び廻つてゐるがこのため米
價は奔騰して地物四等一俵
十二圓五六十錢となりこゝ

錦村の火防總動員

火防童話に續いて

竈の検査や協議會を開く

既報石城郡錦村消防組主催
の少年火防講演會は昨日三
午前十時より同村小學校に
於て開催

最初に

に尋常三年

生以下に對して荒井校長に
紹介され川崎本社長の「火
事と桃太郎」と題する童話
あり小憩の後、今度は尋常
四年生以上の高學年に對し
田口植田警察署長が火災の
如何に恐るべきかを説き次
いで川崎本社長が一時閑餘
に亘り「焼け出された忘却
者」の童話を試み正午閉會
したが



家庭庭園

松茸フライ

▽材料……松茸七十匁、パ
ン粉三匁、玉子一個、小麦

一週間で二圓以上の暴騰振
りを示したのであちこちに
小成金が續出してゐる

濱野野球大會

平町

實業野球團聯盟主催の濱三
郡スポンヂ野球大會は来る
廿日前後に開催する事とな
り目下準備を進めてゐるが
出場資格は前回までと同様
濱三郡内に居住する者を以
て組織されて居る

講話と見學

錦村にて

石城郡中堅農民養成講習會
は昨日午前八時より同郡
錦村小學校に開催
同村農會長鷲重三郎、同
小學校長荒井一二、實行
組長山野邊良助、元技
術員赤津彦夫、養鶏家正
木廣、技手穂積昇、
各氏の講演あり晝食後左記
の見學を行つたと

中堅實行組合、正木養鶏
場、水稻畦巾優良品種試
験地、水稻畦巾株間試験
地、肥料配合試験地、水
稻増收試験地、長子實行
組合稻作
まぶし玉子水にひたし更に
パン粉にまぶしおき別に揚
鍋にラードを入れよく熱し
て松茸を入れ狐色に色付く
まで揚げ取り出して油パセ
リと共に皿にもり温かいう
ちにとべます

本町通りの 露店を禁ず

平署厳しく

平署では本町通り並に三丁
目常磐銀行支店前十字街と
現平署と平驛前との道路は
人馬自動車の通行極めて煩
繁であり交通危険多きより
交通防害の理由で露店商人
に對し斷然出店營業ならぬ
と厳しいお達しを出した若
し違反者があれば容赦なく
告發する方針の由で商人連
は悲鳴をあげてゐる

交通整理

平署が厳行

平地方最近の交通事故激發

に鑑み平署では愈々近く全
管内に涉つて自動車その他
交通機關の特別調査を開始
する事となつた

欠損した

會社が多い

法人所得税

平町稅務署内法人上半期の
所得税と營業收益税は九月
末で大體決定した同月まで
に決算した會社數八十三の
内課税されたものはわづか
四十九で相變らず財界不況
から欠損したものが四を算
し税額も所得税六千四百五
十七圓營業税四千四百六十
九圓で財界回復の遅々たる
係員もあきれて

ク ツ蘭利用

石城各地傳習

石城郡養蠶同業組合では昨
年秋から農村經濟の緩和策
として屑蘭の利用指導講習
會を開き相當成績を収め郡
内に屑蘭の利用者多數に上
り収益少くないに鑑み本年
も九月一日から澤渡村好
間村を初め各町村に屑蘭利
用講習會を開催してゐるが
出席者は一ヶ町村六十人に
達し成績は極めて良好である

關船鯉釣大會

石城
郡湯本町字關船佐藤某所有
養魚場を來る六、七の二日
間開放して鯉釣大會を催す

石 城官行製炭

貝泊にて著手

石城郡貝泊村に於ける官行
製炭業は愈々去る一日より
開始されたが釜數は現在二
十五釜で従業員五十餘名木
炭の外に木材の製産も行ふ
由であるが同村まで石住村
縣道口から九千五百六十メ
ートルの軌道を敷設し之等
製品を運送すると

蓄音器おなじみの 紺屋高尾で名高き

浪界日本第一の人氣者

篠田實 大一行

近日某館へ來演ス